

このような点から、「やむ」「おわる」の分析も「やめる」「おえる」の分析に寄与するところがあるかもしれない。しかし、本稿では扱えなかった。

最後に、本稿で明らかになった点をまとめ、「やめる」「やす」「おえる」の意義素を示したい。

「やめる」： NP₁ガ NP₂ヲ

NP₁には有性物、NP₂には動作性名詞がたつ。ただし、NP₂は動作性名詞でなくても、動作的な読み込みができる場合は可能である。

〈NP₁がNP₂の行為を完結する前に中止する〉

また、NP₂に役職名等を取り「辞職」を表す。

「やす」： NP₁ガ NP₂ヲ

NP₁には人間、NP₂には動作性名詞がたつ。ただし、NP₂は動作性名詞でなくても、動作的な読み込みができる場合は可能である。

〈NP₁がNP₂の行為を開始する前に中止する〉

「おえる」： NP₁ガ NP₂ヲ

NP₁には人間、NP₂には期間あるいは行為を示し完結性名詞がたつ。

〈NP₁がNP₂で示される行為をすることによって、その行為が必要とする期間を過ごす〉

〈注1〉 ただし、次のような慣用的な表現の場合は、「ない」が後接していても、柴田編1979, p.152で述べられているように、否定の意味がないので適格である。

i) そんなことはよさないか。

〈注2〉 ただし、次のような例はよさそうである。

i) 豪華客船が世界一周の旅をおえる。

この場合は、人間が操作するという意識が弱いのかもしれない。

〈注3〉 「中断」という概念に行為の再開の可能性は含意させないことにする。

言語経歴：1958年11月 東京都豊島区生 3歳～ 埼玉県朝霞市
(東京都立大学大学院学生)

やる・する

中本正智

「やる」は、「やりもらい」動詞として意識されることが多い。この語について森田1977に分析例があがっているが、ここでは、「やる」と「する」が類義となる場所に焦点をあてることにする。

(1) 小鳥に 餌を やる。

(2) お前に 財産を やる。

「やる」は餌なり、財産なりを、対象のものに与える意を表している。これが「やりもらい」動詞としての「やる」の意味である。つまり、与える側から与えられる側へ、物や目に見えない所有権のようなものが移動することである。

(3) 噴火は 人々を 島から 追いやった。

「追いやった」は、せきたてられるように人々が島を離れたことを表している。「追い」によって、せきたてられるような気持が表わされているのであり、「やる」が、人々を島から、移動して遠ざからせるということ

を表している。その原因となった噴火は島側にあり、つねに「やる」の後方にあるということも大事な要素となっている。

ところが、「やる」には、あるものの移動のほかに、次のようなものもある。

(4) 勉強を やる。

この例では、「やる」は移動することを表すのでなく、ある事を行なう意を表している。これは、

(5) 勉強を する。

と、ほぼ同じ意味を表すことになる。

一方、「する」は、ある事を行なう意のほかに、用法が広がっている。

(6) お前を 仲間に する。

(7) 潮を 真水に する。

(8) ぼくは ビールに する。

(9) 欠伸を する。

「仲間にする」における「する」は、人間関係のありかたに変化をもたらすことであり、これは「潮」を「真水」に変えるのと同じ意味を表している。(8)は、飲むのにビールを選択したということであり、(9)は、欠伸という自然現象が起こることを表している。

こうみえてくと、「やる」と「する」は、互に重なっている部分と重ならない部分を持つことになる。

ここでは、ある事を行なうという意味で重なっている「やる」と「する」について、その差異に焦点をあてて分析することにした。

ある事を行なうという意味特徴を表すとき、「やる」と「する」は類義語として重なってくるのだが、それにしてもまったく同じ意味を表すわけではない。それは、次の例をみてもわかるだろう。たとえば、合格発表の掲示を前に、そこに自分の名前を認めて、

(10) ヤッタ、ヤッターッ!!!

と歓声をあげる。この風景は年中行事のようにみえてきたおなじみのものだが、これは「やる」ということばをつかって、自分の気持をよく表現しているといえる。これを「する」をつかって、シターッ!とは言えないし、言ったところで、ヤッタのような迫力は出てこないだろう。

この例からわかるように、「やる」と「する」は、類義語で重なっている部分があるが、重なっているところでも、その用法に差があるといわねばならない。いったい、どこがどうちがっているのであろうか。

まず「する」についてみると、その意味はいろいろに現れる。

(11) 彼は一日中 仕事を する。

(12) 彼に あいさつを する。

(13) 泣いて 目を 真赤に する。

(14) 六十点以上を 合格と する。

この例をみてわかるように、文型によって意味の現れかたがちがう。

「～をする」と「……に～をする」においては、ある事を行なう意が現れ、「……を～にする」では、「を」格に立つものを変化させることを表し、「……を～とする」では、ある基準を設けて、物事を判断処理することを表している。

このような「する」の意味のうち、「やる」と重なるのは、前者「～をする」と「……に～をする」であって、

(15) 彼は一日中 仕事を やる。

(16) 彼に あいさつを やる。

と言うことが可能であるし、

(17) *泣いて 目を 真赤に やる。

(18) *六十点以上を 合格と やる。

と言うことが不可能である。

このような用法の差から、「やる」が「する」と類義の関係を結ぶのは、ある事を行なう意の場合に限られているということがわかる。

では、ある事を行なう意が現れる「～をする」(または「～がする」)という文型について、「する」をすべて「やる」に置き換え可能であるかということ、かならずしもそうではない。

(19) 十二月から 暖房を する。

(20) 今年も 学級委員を する。

(21) 寒くなると 手袋を する。

(22) テレビを見すぎて 居眠りを する。

(23) くしゃみを する。

(24) めまいが する。

この例文の順序は、「する」で表わされる行為が、意志的なものから、順次、無意志的なものへ、つまり、生理的に喚起されるものへと並べてみたものである。

暖房をすることは、財政ともかかわって一般的に意志的行為であり、学級委員をすることは、その役職に意志的につくことであり、手袋をすることは意志的にある状態に身を置くことである。居眠りをするのは、意志的な場合もあるし、無意志的な場合もあるが、「テレビを見すぎて」という文脈では、無意志的とみてよいだろう。あとのくしゃみやめまいは、生理現象であって、無意志的に喚起されるものである。

そこで、同じ文例をつかって、「する」を「やる」に置き換えてみる。

(25) 十二月から 暖房を やる。

(26) 今年も 学級委員を やる。

(27) 寒くなると 手袋を やる。

(28) *テレビを見すぎて 居眠りを やる。

(29) *くしゃみを やる。

(30) *めまいが やる。

つまり、無意志的に生理現象として喚起される行為には、「やる」をつかうことができない。

そこで、「する」と「やる」の意味の差異が明確となった。

「する」が、行為や変化、そして基準による判断処理や状態など、広い意味領域に用いられるに対し、「やる」は、「する」と類義の関係を結ぶときには行為だけに限って用いられ、しかもその行為は意志的なものに用いられるということである。

「やる」が意志的にある事を行なうという意味をもつ

ている語であることがわかってみると、先にあげた合格発表風景での、ヤッタ、ヤッターッ!!! という歓声が、シタ（為た）ではしまらないことが、さらによく理解できるのである。一年間、努力してきた受験勉強は苦難に満ちてはいるが、そこには強い意志が働いてきたのであり、その総仕上げの結果がヤッタの中に込められているのである。スポーツ選手などが、ガッツポーズをして、ヤッタともらすことばも、これと同類のものである。

そういえば、昨年あたり、テレビの世界で「やらせ」ということが問題となっていた。これは、情報公害というべく、八百長的なもので、あたかも自然の事実のように事前に当事者と相談して、あることをやらせてしまうことで、これを見せられる視聴者は、たまったものではない。

この「やらせ」という言葉も、強い意志というより、

作為が強く働いていることを表すのにふさわしいものであった。これを「させ」といったのでは、作為的な意味を含めることはできない。

そして、強い意志は、周囲の人々の気持を押しつぶすことになり、悪意に満ちた行為となる。

(3) かたっぱしから やっちまえ。

となると、もはやそこは無法の状況を呈することになる。

「やる」のもっている強い意志性が、この語を、「やり手、やり口、やり込める」など、マイナスイメージの意味へと転化させていく理由も、よく理解されるのである。

言語経歴：1936年1月 沖縄県玉城村生。
1961年4月 東京都・埼玉県在住。

参考文献一覧

ここに掲げる参考文献は、本誌の意味論関係の論文において言及されたり、参考にされたりしているものを一括して、文献の編著者の五十音順に並べたものである。この他の多くの文献も参考にしているが、主なものを示した。御理解、御寛恕いただきたい。

- 井上和子1976 『変形文法と日本語（下）』大修館書店
池上嘉彦1980—81 「'Activity'—'Accomplishment'
——'Achievement'——動詞意味構造の類型——」『英語青年』124巻9号—12号 研究社出版
———1981 「『する』と『なる』の言語学」大修館書店
金田一春彦・池田弥三郎編1978 『学研国語大辞典』学習研究社
見坊豪紀他編1982 『三省堂国語辞典第三版』三省堂
国広哲弥編1982 『ことばの意味3』平凡社
倉石武四郎・折敷瀬興1983 『日中辞典』岩波書店
国立国語研究所1964 『分類語彙表』秀英出版
———1972 『動詞の意味・用法の記述的研究』同上
柴田武編1976 『ことばの意味1』平凡社
——編1979 『ことばの意味2』同上
中国科学院語言研究所詞典編輯室編1973 『現代漢語詞典』商務印書館
新村出編1983 『広辞苑第三版』岩波書店
杉本武1984 「とおる・すぎる・ぬける」『日本語研究』7
———1986 「格助詞——「が」「を」「に」と文法関係——」奥津敬一郎・沼田善子・杉本武「いわゆる日本語助詞の研究」凡人社
鈴木重幸1974 『日本語文法・形態論』むぎ書房
大連外国語学院編1983 『新日漢辞典』遼寧人民出版社
高橋太郎1983 「構造と機能と意味——動詞の中止形（～シテ）とその転成をめぐって——」『日本語学』2巻12号 明治書院
徳川宗賢・宮島達夫1972 『類義語辞典』東京堂
中右実1981 「格の表現形式：英語」『講座日本語学10』明治書院
成田徹男1979 「動詞の意味と格——「移動」に関する動詞を中心に——」『人文学報』132 東京都立大学
西尾実他編1979 『岩波国語辞典第三版』岩波書店
日本国語大辞典刊行会編1972—76 『日本国語大辞典』小学館
林巨樹監修1985 『現代国語例解辞典』小学館
文化庁1975 『外国人のための基本語用例辞典第二版』大蔵省印刷局
宮島達夫1985 「ドアをあけたが、あかなかった——動詞の意味における〈結果性〉——」『計量国語学』14巻8号 計量国語学会
森田良行1977 『基礎日本語1』角川書店
———1980 『基礎日本語2』同上
———1984 『基礎日本語3』同上
山口明穂・秋本守英編1985 『詳解国語辞典』旺文社
山田進1981 「機能語の意味の比較」『日英語比較講座第3巻：意味と語彙』大修館書店
山田忠雄他編1981 『新明解国語辞典第三版』三省堂